



10月ほけんだより



松山市 保育・幼稚園課
2020 年 第7号

スポーツの秋、読書の秋、芸術の秋がやってきました。秋は過ごしやすく、子どもたちにとってもいろいろなことにチャレンジするのにちょうどいい季節ですね。そして、食欲の秋！秋には、栄養豊富な食べ物がたくさんあります。旬の食材をいろいろ食べて、新型コロナウイルス感染症などの病気にも負けない元気な体づくりを心がけましょう。

～気になる感染症～

RSウイルス感染症



＜病原体＞RSウイルス
＜潜伏期間＞4～6日
＜症状＞

呼吸器感染症で、乳幼児期に初感染した場合の症状が重い。特に生後6か月未満の乳児では重症な呼吸器症状を生じ、2歳以上で再感染・再々感染した場合に、症状としては軽い咳や鼻汁程度しかみられない場合もある。

＜予防方法＞うがい・手洗い
＜注意すること＞
生後6か月未満児は重症化しやすく、入院管理が必要となる場合もあるため注意が必要である。
＜登園基準＞
呼吸器症状がなく、全身状態が良くなったとき。

溶連菌感染症

＜病原体＞溶血性しんさ球菌
＜潜伏期間＞2～5日
＜症状＞
発熱やのどの痛み・腫れ
舌はイチゴのようにブツブツになり、全身に鮮紅色の発疹がでる。
＜予防方法＞うがい・手洗い
＜注意すること＞
合併症を予防するため、症状が治まってからも決められた期間、抗菌薬を飲み続けることが必要となる。
＜合併症＞
治療が不十分な場合には、発症数週間後に、リウマチ熱や腎炎等を合併することがある。
＜登園基準＞
抗菌薬の内服後24～48時間経過していること。

新型コロナウイルス感染症だけでなく、この時期からはインフルエンザを始め秋から冬のシーズンに流行しやすい感染症対策など、子どもたちの健康管理・安全対策には十分に気をつけていきたいと考えております。引き続き、予防を心掛けましょう。



《10月10日は目の愛護デー》

2つの10を横に倒すと、まゆと目の形に見えることから、10月10日は目の愛護デーとされています。乳幼児期は、子どもの目がかもとも育つ時期。この機会に、ご家庭でも、子どもの「目」の健康をあらためて見直してみましよう。

【弱視】

遠視や乱視、斜視が原因で視力の発達が遅れる状態。遠視や乱視による弱視は、保護者にも分かりにくく、治療の時期をのがしてしまい、重大な障害になる場合もあるので注意が必要です。

【斜視】

物を見ようとするときに、片目は正面を向いていても、もう片目が違う方向を向いてしまっている状態。生まれた直後から、明らかに斜視が存在する場合と、成長してから目立ってくる場合とがあります。一時的に斜視がある場合でも、遠視が原因となり、手術がのちに必要になることもあるので、斜視がみられる場合は、眼科を受診するようにしましょう。

お子さんにこんな様子がみられたら 要注意！

- ・テレビや絵本に近づいて見る
- ・明るい戸外でまぶしがる
- ・目を細めて見る
- ・目が寄っている
- ・見る時に首を曲げたり、頭を傾けたりする



このような様子が見られると、弱視や斜視の可能性が考えられます。子どもは自覚ができないため、大人が、普段から気をつけてあげるようにしましょう。